

みんなが生き生きと授業を受けられるように。

最適な学習環境が実現するよう働きかけています。

最適な学習環境は、地域の特性や規模によって異なります。福井県教職員組合は、すべての子どもたちが楽しく効果的に勉強できるように、行き届いた学習環境の実現をめざし、行政や関係各方面に働きかけています。

複式学級の長所を生かし子どもたちを伸ばす

勝山市 野向小学校

複式学級では、学年の違う子どもたちどのように教えているのですか？

私の学級は5年生7人と6年生3人、合わせて10人を一度に教えています。学年別に補助黒板で別々の授業もしますが、教科によっては同じ問題を考えさせるなど、教科や内容に合わせて子どもたちがしっかり理解できるように工夫しています。

複式学級の良い点は？



複式学級で5、6年生担当
北川真寿美 先生



補助黒板などを使いながら、1つの教室で2つの学年が同時に授業を行う

しています。

指導する側の負担は？

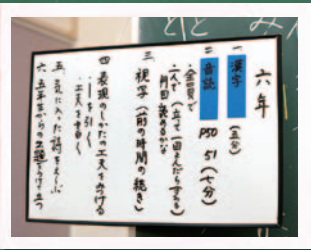
複式学級の担当は昨年からですが、授業の準備は2倍なので忙しくなりました。指導の参考となる本が少なく、試行錯誤の一年でした。学校全体の教員も少なく、いくつもの教科主任を担当するので、会議や出張もたくさんあります。授業や子どもたちにしわ寄せ



複式学級5、6年生で1つの教室



学級目標はみんなで1つ



この時間に6年生が勉強することを書いたホワイトボード



が行かないよう、日程調整してやりくりしていますが、大変な部分もあります。学習支援の先生の勤務が丸一日あると打ち合わせ時間が持て、より効果的な指導につなげられると思います。

今後への要望は？

特に小学校では近年、それぞれの地域や環境を活かした教育が求められています。小規模校では地域との一体感が強く、子どもたちも伸び伸びと言つ長所があります。しかし、少ない人数とはいえ、学年や発達段階に応じた指導が必要な場面もあります。今の環境の長所を最大限生かし、子どもたちにもっとよい学習環境をつくるのが教師の役割だと思いますし、そのための支援が増えればと願っています。

複式学級について

2つの学年で16人以下の場合、1学級という基準がある(1年生を含む場合は8人以下)。福井県内の複式学級は小学校41校・82クラス。

福井県教職員組合は、子どもたちのため、教職員のため、社会のために活動しています。



知事・教育長交渉

先生が子どもたちと向き合う時間がとれるよう、知事や教育長に教育条件改善を訴えています。



議員要請行動

直接、国会議員や政府与党等に学校現場の様子や子どもたちの願いを伝え、法整備の必要性を訴えています。



教育請願署名運動

学校・保護者・地域が一体となって、福井の教育をよくするために署名運動を行い、75,694筆の署名を集め、福井県議会に請願書を提出しました。



教育講演会

他団体とも協力し、社会問題や教育問題を考え、子どもたちに必要な支援について学習する講演会等を開催しています。



子どもたちの未来を、もっとよくするために。福井県教職員組合は活動しています。

福井県教職員組合 〒910-8544 福井市大手2-22-28 福井県教育センター内 電話 0776-23-1887 ファクス 0776-23-2919 <http://www.ftu.or.jp/>